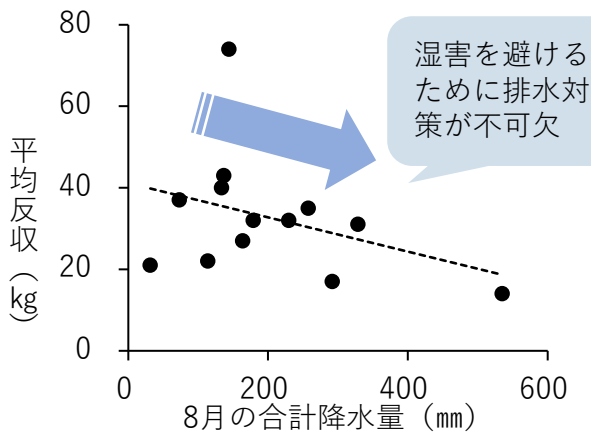


そば収量確保のカギは ◎排水対策 ◎適期播種

1. 圃場の排水性の確保

重要項目 その1



そばの平均単収と8月の降水量の関係

※H25～R7の鶴岡市の平均単収(農水省統計)とアメダスデータ鶴岡から作成

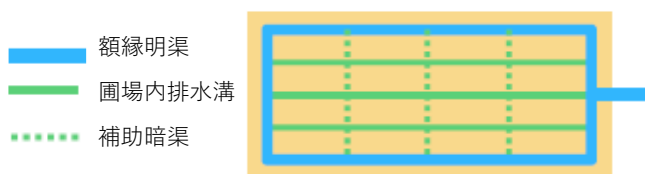
◆ **そばは湿害に弱く**、特に播種直後から生育初期の湿害は収量を大幅に低下させます。
圃場表面に水を停滞させないことが出芽安定・生育確保のポイントです。

◆ そばの平均単収は、8月の降水量が多いほど少ない傾向があります。8月は集中豪雨に見舞われることがあるため、必ず明渠、暗渠・補助暗渠を施工して、降雨後すみやかに地下水位が下がるようにしましょう。

◆ 額縁明渠は深さ30cmを確保し、圃場排水口に確実に排水できるようにしましょう。

◆ 圃場内にも排水溝を施工するとさらに効果的です。

◆ 補助暗渠(サブソイラ等)は深さ30cm前後、間隔は2～3mで施工し、明渠・暗渠と交差するように配置します。



排水対策の模式図

2. 出芽率を高める耕起作業

◆ 直径1cm以下の土塊の割合(砕土率)は60%以上を目標にします。

◆ 耕起の深さは15cm以上とし、砕土率を高めるために圃場が乾燥しているときに耕起します。

◆ 雑草の発生が見られる圃場では、播種前、圃場が乾いているときに耕起してすきこみます。

砕土率が低いと、
出芽率が低下し雑草繁茂の原因に



3. 基準施肥量・土づくり資材

- ◆ 生育・収量の確保には適正な施肥量が必要です。特にリン酸が不足すると生育量・収量が低下するので、十分な量を施肥しましょう。
- ◆ 過度の窒素施肥は徒長・倒伏に繋がるので避けましょう。野菜後作の場合は、窒素を施用せず、リン酸・カリのみを施用します。
- ◆ 高温で生育すると徒長して倒伏しやすくなるため、圃場の肥沃度や前作を考慮して施肥量を決定しましょう。
- ◆ そばはpH4.5以下の酸性土壌で生育が阻害されます。土壌pH6.0を目標に石灰資材等を投入し、徐々に改良していきます。

表1 そばの基準施肥量

成分	窒素	リン酸	カリ
kg/10a	2.0～4.0	6.0～9.0	6.0～9.0



リン酸肥料がそばの生育に与える影響
(農研機構九州沖縄農業研究センター
「そば春まき栽培マニュアル」より)

4. 播種適期と播種量

重要項目 その2

表2 そばの播種適期

播種適期(月日)	
平坦部	中山間
8月1日～8月10日	7月25日～8月5日

表3 そばの播種量

播種量(kg/10a)	
散播	条播
7～8	5～6

- ◆ そばの早播きは徒長や倒伏を招き、遅播きは十分な生育量が確保できないうちに開花・結実し、減収につながります。
- ◆ 8月下旬には開花が始まります。それまでに十分な分枝数と花房数を確保できるよう、適期内（表2）に播種することが重要です。
- ◆ 天気予報を確認し、播種後に晴れの続く日をねらって播種します（播種後の大雨で出芽率が低下）。
- ◆ ドリル播きは播種深が均一になるため、安定した出芽が期待できます。ただし間隔が広いと雑草が繁茂するため、条間は20～30cmとします。
- ◆ 播種時に土壌が乾燥している場合は、播種深をやや深くし、播種後の鎮圧をしっかりと行ないましょう。
- ◆ 散播では、播種後にロータリー等で浅く土壌混和・覆土します。



熱中症を予防しましょう！

こまめな休憩と水分補給を！